

下野市立細谷小学校

1 学校課題

(1) 研究主題

子ども一人一人が自分の思いや考えを伝え合う力の育成 ～少人数学級の特性を生かして～

(2) 研究の仮説

仮説1 少人数学級の特性を生かし、コミュニケーションを図る場を工夫すれば、子どもが自分の思いや考えを伝え合う態度が身につくのではないだろうか。

仮説2 各教科の学習指導の中で言語活動を充実させることにより、子どもの語彙力等が増し表現力が身につくのではないだろうか。

2 研究計画

月	研修内容
4	・学校課題研究についての共通理解
5	・学級の児童の実態把握とめざす児童像、学級像の明確化
6	・指導案検討
7	・学校課題授業研究会 授業 2年国語
8	・指導案検討
9	・指導案検討 ・学校課題授業研究会 授業 5・6年道徳
10	・学校課題授業研究会 授業 1年算数
11	
12	
1	・学校課題の成果の確認
2	・研究の反省
3	・次年度の計画

3 研究内容

(1) 主な研究内容

① 1単位時間におけるコミュニケーションの場の設定

- ・国語科においては「話すこと・聞くこと」「読むこと」「書くこと」
- ・各教科の特質を生かした場の工夫

② 個に応じた指導の工夫

- ・学習の共通実践事項に基づいた授業の展開
- ・各種テストの分析結果を生かした指導

③ 言語活動の充実

- ・各教科の指導計画の中での言語活動の位置づけ
- ・学習環境の整備（学習コーナーの設置や発表話型の見直し）
- ・辞書引用の習慣化と新聞記事の活用

(2) 研究の実際

① 第1回授業研究会 2年 国語「本はともだち」

指導者 宇都宮大学教育学部准教授 上原秀一先生

下野市教育委員会指導主事 坂本順子先生

「黄色いバケツ」の主人公である「きつねの子」を紹介する文章を書くために、「人物を説明する言葉」のカードを使って、グループで話し合う活動を行った。活発に意見が飛び交うような話し合いにはならなかったが、一人一人がよく考えて参加していた。「読むこと」、



「書くこと」、読書を関連づけて、単元を貫く言語活動を計画的に設定した。

②第2回授業研究会 5・6年 道徳 「知らない間の出来事」(友情・信頼、助け合い)

指導者 下都賀教育事務所指導主事 土方 勝先生
下野市教育委員会指導主事 田澤 孝一先生

5年生と6年生とが一緒に学ぶ複式の学級である。互いの顔を見ながら話し合えるよう、机をアーチ型に並べた。その際、少人数で話し合う場面も考えて、5年生と5年生の間に6年生が入るようにした。授業では、板書計画をしっかりと立て、構造的な板書を心がけた。児童が、二人の登場人物の気持ちを考えて話し合い、教師と児童とで黒板にまとめていった。



③第3回授業研究会 1年 算数 「たしざん」

指導者 宇都宮大学教育学部准教授 上原秀一先生
下野市教育委員会指導主事 坂本順子先生

担任と学級支援指導助手とのTTで授業を行った。繰り上がりのある足し算の計算のしかたを児童一人一人が考え、それを友達に伝える学習を行った。子どもの考えを子どもの言葉で深めること、教師が子ども同士をつなぐようにすることの大切さを再確認した。



4 本年度の成果と課題

(1) 成果

- ・ 児童にとって発表や話し合いがしやすい方法を考えた。特に、机の配置については、昨年度に引き続き各学年で工夫を重ねた。一人で考えるとき、ペア学習をするとき、グループで話し合うとき、全体で練り上げるとき、それぞれの学習形態に応じて効果的な方法を実践した。児童が、速やかに話し合い活動に移れるようになった。
- ・ 算数や理科、社会などでは、図や表を使って自分の考えを伝える場を意図的に設定した。図や表などは、教室に掲示して、次の学習に生かすこともできた。
- ・ スピーチ集会や学校祭など多くの人の前で発表する機会を捉え、よりよく伝えるためにはどうしたらよいかを児童に意識させた。また、教師も、声の大きさなどの問題点を知り、指導に結びつけることができた。
- ・ とちぎっ子学力状況調査や全国学力調査の結果を分析し、課題を洗い出した。各クラスで、朝の学習や学級裁量の時間を活用し、習熟度に応じたプリント学習などを行った。学校全体では、新たに全校一斉漢字テストを年2回実施し、漢字の読み書きへの意欲を高め、能力を伸ばすことを目指した。2回目の方が1回目より平均点が上がり、成果が見られた。



(2) 課題

- ・ 自分たちで話し合いを進める力を児童に身につけさせることが大切である。それを意識し、有効な手立てを探ってきた。研究授業でも授業者が提案し、参観者と共によりよい方法を検討した。しかし、頭では分かっているのだが、まだ教師主導の授業が多くなりがちである。「児童→教師→児童」ではなく、「児童→児童→児童」といった話し合いができるような学習計画や教師の発問などをもっと工夫したい。また、授業のまとめが児童自身の言葉でできることをめざし、児童に経験を積み重ねさせたい。
- ・ 指導計画への言語活動の位置づけや、「発表のやくそく」については、各学年では検討・研究したが、全体で研修する機会が足りなかった。研修の時間を取り、協力して取り組みたい。
- ・ 個々の力を伸ばすには、自主的な学習が必要である。自分の力に合った学習ができるよう、自主学習の考え方ややり方を児童にさらに指導していきたい。同時に、家庭の理解・協力がさらに得られるよう、学級懇談などで話す機会を増やしたい。